

第3章 やってみよう！ 人権研修

やってみよう！ 人権研修

日常の中で見られる一場面をとりあげて、「自分だったらどう対応するのか」等を園内研修等で考えてみましょう。このワークは一人でできるワークもありますし、保育所・幼稚園等の保育者同士、保護者同士でできるワークもあります。

子どもの置かれている状況や、気持ちにじっくり向き合うことで、新しい見方や考え方に会うことができるのではないのでしょうか。

なお、本項では、ワークをするうえでおさえておきたいポイントや具体的な対応例等もいくつかあげています。参考にしてください。

【本章で紹介しているワーク】

保育者ワーク

- ①自尊感情や自己肯定感を育むために
- ②子どもの思いをどう受け止めますか
- ③想像力、共感力を育むために
- ④性の多様性を理解するために
- ⑤特別な支援が必要な子どもたちのために

いつ…午睡の時間
預かり保育の時間 等

誰と…個人で
在籍園の保育者と一緒に

時間…30分～1時間程度（目安）

保護者ワーク

- ①子どもの声を聴く
- ②どうしていますか？ 子どもの生活リズム
- ③わがままと自我
- ④子どものやる気

いつ…参観日・懇談会や園行事
降園前 等

誰と…担当クラスの保護者と
所長・園長先生と保護者で

時間…1時間程度（目安）

ワークを始める
その前に…



「やってよかった!」「またやりたい!」 園内研修のコツ

☞ 研修を始める前には、研修の目的や進め方をみんなでしっかり確認しておこう

限られた時間を有効に使うためには、参加者の共通理解が大事なポイントとなります。最初に研修の目的や進め方を丁寧に説明しておくこと、初めて参加する方も安心して取り組むことができるでしょう。

☞ どのようなアイデアを出してもOK! 発言をしなくてもOK!

アイデアを思いつくままに出し合えることで、気付きや学びに広がり生まれます。一つ一つのアイデアの可能性をみんなで一緒に探っていきましょう。

なかには、発言するのが苦手な参加者もいます。発言を強制するような雰囲気は、緊張感を生み、参加意欲が下がってしまうことも。発言は自由なものであって、強要するものではありません。研修の進行役は、発言を待つ姿勢や、自ら発言したくなる雰囲気づくりを心掛けましょう。

☞ 傾聴の姿勢を心がけて

誰かが発言した時に、一方的な感想を押しついたり、安易に批判したりする雰囲気になると、やってよかったと思える話し合いにはなりません。全ての意見には、それぞれの思いがあります。聴き役は、お互いの考えや感じ方を肯定的に捉え尊重し、発言者の意見に丁寧に耳を傾けましょう。

気になる意見が出たときは「なぜそう思うの?」等と質問をし、発言者の思いを確認してみましょう。見方や考え方が広がるとともに、お互いの保育観や子育て観を共有するよい機会になると思います。

進行役は、一人の人が話し過ぎたり、一方的な話し合いになっていたりしていないか、等に気を付けておきましょう。

☞ 守秘義務をしっかり守ろう

話し合いの参加者同士だからこそ、安心して話せることもあります。ワークの中で知った参加者個人の情報や、子どもの個人情報等を他の人に話したり、家にもち帰って家族に話したりしないようにしましょう。

一人一人の思いが大切にされる雰囲気づくりは、
人権感覚を育む第一歩です



保育者ワーク① 自尊感情や自己肯定感を育むために

1歳児の保育室でのこと。

近頃、保育室内の座卓やままごと用のテーブルによじのぼる子どもたちが多くなっています。保育者は、子どもたちがけがをしないように、座卓やテーブルから降りるように声を掛けたり、保育者が降ろしたりして対応しています。

あなたならどうしますか？

【事例から考えたいこと】

- このクラスでは、なぜ座卓やテーブルによじのぼる子どもたちが増えたのでしょうか。
- 座卓やテーブルによじのぼる時、また、保育者によって下に降ろされた時の子どもたちの気持ちを想像してみましょう。
- 子どもの育ちを支えるためには、どのような対応が考えられますか。

おさえておきたい POINT

満1歳を超えると、一人歩きができる子どもが増え、探索活動と呼ばれる動きが活発になります。保育室内の様々な環境に自ら働きかけながら、少しずつ自分自身や周りの世界を認識していきます。

座卓やテーブルによじのぼることは危険で不適切な行動のように思われますが、少し高い段差に挑戦し、よじのぼるという動きそのものに夢中になっているのかもしれませんが。また、よじのぼることで視線が上がり、高い位置から周囲を見渡すことができるようになるので、目に見えるものの違いを楽しんでいるのかもしれませんが。

子どもの興味や関心、発達を丁寧に捉え、適切な環境を用意することで、身体的発達が促されるとともに達成感や充実感を味わうことができます。また、自分の思いを理解してくれる大人の存在を感じることで、自尊感情や自己肯定感、自分の思いを表現する力も育まれます。

マット等を敷いて安全面の保障をしたうえで、よじのぼることができる段差のある環境を用意する等し、保育者が探索活動を保障しようとする姿勢をもつことが大切です。

保育者ワーク② 子どもの思いをどう受け止めますか

プール遊びをするために、みんなで水着に着替えていた時のこと。カオルさんが保育者のところにやってきて、「違うところで着替えたい」と言いました。保育者が「どうして？」と聞くと、「みんなと一緒にだと恥ずかしいから」と答えました。

あなたならどうしますか？

【事例から考えたいこと】

- カオルさんは、なぜ恥ずかしいと感じたのでしょうか。
- カオルさんが恥ずかしいと感じることについて、あなたはどのように思いますか。
- カオルさんの育ちを支えるためには、どのような対応が必要でしょうか。

おさえておきたい POINT

いろいろな感情を体験する乳幼児期に、「恥ずかしい」という感情が芽生えることはひとつの大きな成長です。また、着替え等の場面では、性自認（自己の性をどのように認識しているか）の芽生えや、体の特徴への意識（ケガや手術の痕等も含む）によって、戸惑いを感じる子どもも出てきます。

保育者は、そのような感情を丁寧に読み取り、自尊心や自己肯定感につながるような感情体験となるよう、配慮のある対応をする必要があります。

まだ子どもだからといって、恥ずかしい気持ちを軽視したり、否定したりするのではなく、大切な成長の芽生えであると認識し、安心して生活ができる環境づくりを心掛けましょう。そのような保育者の姿を見ることで、子どもとの信頼関係も育まれます。

保育者ワーク③ 想像力、共感力を育むために

子どもが集まって鬼ごっこをしていた時のこと。さっきまで楽しそうに逃げ
ていたアオイさんが、「もうやめる」と言って、その場から離れていきました。
他の子どもたちは、鬼ごっこを続けています。保育者が「アオイさんはどうし
たの？」と聞くと、「鬼がタッチしたら怒ってしまった」ということでした。

あなたならどうしますか？

【事例から考えたいこと】

- アオイさんは、なぜ怒ってしまったのでしょうか。
- アオイさんが怒ったことについて、あなたはどのように思いますか。
- アオイさんや周りの子どもの育ちを支えるためには、どのような対応が必要でし
ょうか。

おさえておきたい POINT💡

この場合、何歳児の事例なのかによって保育者の対応は変わってくるでしょう。で
すが、まず大切なことは、怒らずにいらなかったアオイさんの気持ちや育ちを理解
しようとすることです。そして、アオイさんだけでなく、アオイさんを取りまく周り
の子どもたちの育ちも一緒に考えることが大切です。

トラブルによっては、すぐに保育者が仲立ちに入らなければならない場面もありま
すが、できる限り、子どもの様子を観察し、個々の動きや、仲間との関係等を捉えて、
「個」と「集団」の両方の育ちを理解していきましょう。

また、想像力や他者への共感を育むためには、保育者の関わりがモデルになるとい
うことも忘れてはいけません。この場合は、保育者がアオイさんにどう関わるのか、
保育者が他の子どもにどう関わるのかを子どもは見ています。

保育者自身が想像力と共感力を働かせて関わる姿を通して、子どもは他者との関係
づくりを学んでいくのです。

保育者ワーク④ 性の多様性を理解するために

平成31年度から、高知県民に身近な人権課題に「性的指向・性自認」が新たに加えられました。性の多様性についての認識を高めるとともに、保育所・幼稚園等には、子ども一人一人がありのままの自分でいられる環境づくりが求められています。

しかし、保育者の無意識の行為の中に、子どもを不安にさせたり、傷つけたりする行為が含まれていることもあります。保育者同士で話し合い、性の多様性についての多くの気付きを共有し、多様な生き方が保障される生活をめざしましょう。

あなたならどんなことに気を付けますか？

見直しの POINT

- ◆ 「男の子」「女の子」という言葉を多用したり、グループ分けの方法として安易に使用したりしていないか。
- ◆ 無意識に青、ピンク等で色分けしている保育環境はないか。(トイレのスリッパ、ごっこ遊びで使うコップ等)
- ◆ 制服等の着衣で戸惑っている子どもはいないか。(スカートやズボンの着用等)
- ◆ 性の在り方を固定化するような言動はないか。(〇〇くんは男の子だから泣かない、女の子だからピンク色、男の子は戦いごっこが好きだろう等)
- * ものや遊びへの興味の示し方には男女差があることが分かっていますので、男女差を否定するということではありません。男女差についての理解を深めることも大切にし、同時に、性にかかわらず個人の興味や関心を保障しようとする姿勢が大切です。
- ◆ その他、子どもを不安にさせたり傷つけたりするような、無意識な言動はないか。

学校では性同一性障害に係る児童生徒への対応として、次のような支援が行われています。参考にしてください。

項目	学校における支援の事例
服装	自認する性別の制服・衣服や、体操着の着用を認める。
髪型	標準より長い髪型を一定の範囲で認める(戸籍上男性)。
更衣室	保健室・多目的トイレ等の利用を認める。
トイレ	職員トイレ・多目的トイレの利用を認める。
呼称の工夫	校内文書(通知表を含む)を児童生徒が希望する呼称で記す。 自認する性別として名簿上扱う。
授業	体育又は保健体育において別メニューを設定する。
水泳	上半身が隠れる水着の着用を認める(戸籍上男性)。 補習として別日に実施、又はレポート提出で代替する。
運動部の活動	自認する性別に係る活動への参加を認める。
修学旅行等	一人部屋の使用を認める。入浴時間をずらす。

「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について」(平成27年4月30日文科科学省児童生徒課長通知)の別紙より

保育者ワーク⑤ 特別な支援が必要な子どもたちのために

ミナミ先生のクラスには、特別な支援が必要だと思われるチアキさんがいます。チアキさんは、毎日、意欲的に登園しており、興味や関心のあることに集中して取り組む姿が見られる一方で、思い通りにならないとかんしゃくを起こしたり、クラス全体で取り組む活動に参加しなかったりする等の姿も見られています。ミナミ先生は、クラス全体の活動を進めていくことに精一杯で、チアキさんのことは加配保育士のカトウ先生に任せている状態です。

チアキさんはカトウ先生と一緒に遊ぶことが多く、クラスの子どもたちがチアキさんを遊びに誘ったりすることはあまりありません。他の子どもたちと一緒に遊んでもすぐにトラブルになってしまうので、遊びが長く続くことは難しい状況です。

あなたならどうしますか？

【事例から考えたいこと】

- チアキさんがかんしゃくを起こしたり、クラス全体で取り組む活動に参加しなかったりするのなぜだと思いますか。
- クラスの子どもたちは、チアキさんのことをどう捉えていると思いますか。
- ミナミ先生とカトウ先生の保育体制について、あなたはどのように思いますか。
- チアキさんや、クラスの子どもたちの育ちを支えるためには、どのような対応が必要だと思いますか。

おさえておきたい POINT

意欲的に登園していることから、チアキさんは園生活を楽しんでいることが分かります。園内には、チアキさんの興味や関心のあった遊具や環境が用意されているのでしよう。このことは、一人一人の子どもの育ちを支えるために、何よりも大切なことです。その一方で、他の子どもとの関係には、難しさがあるようです。

保育者が一対一で対応することで、子どもは安心して遊ぶことができます。しかし、子ども同士の関わりによって広がる世界もあるので、保育者は、安心した生活とともに、子ども同士で育ち合う生活を保障する必要があります。

【個々の育ちを支えるために】

この場合、チアキさんがかんしゃくを起こすような場面が、どのような時に起きやすいのか、クラスでの活動に参加しないのはなぜか、という要因を探ることが大切です。考えられる要因を取り除く等して、集団の中でも安心して過ごすことができるような対応が求められます。

【人との関わりを支えるために】

ミナミ先生とカトウ先生の役割分担が明確になっていることで、チアキさんと他の子どもが関わる場面が生まれにくくなっている可能性もあります。ときには、ミナミ先生がチアキさんとじっくり関わり、その時にはカトウ先生が他の子どもたちとじっくり関わる等して、子どもたちが様々な人との関わりを楽しむことができる経験を保障することが必要です。

さらに、チアキさんがクラスの活動への参加が苦手であったとしても、保育者はクラスの一員であることを意識し、他の保育者と一緒になってまなざしを向けたり、声掛けを続けたりすることが大切です。その姿を、周りの子どもは見ています。子ども同士がつながり合えるかどうかは、保育者同士がつながり合っているかどうか大きく影響されるのです。



保護者ワーク① 子どもの声を聴く

- 【ねらい】
- 「聴く」「聴いてもらう」を体験することで、自分の気持ちを受け止められる経験をする。
 - 役割を演じることで、子どもの気持ちや大人の気持ちを考える。
 - 大人にとってマイナスに見がちな子どもの行動をプラスに見て理解を深める。

【準備する物】◎「ワークシート① 子どもの声を聴く」

◎付せん(中・・・2色) ◎ペン・色マーカーペン ◎模造紙

【所要時間・人数等】60分 1グループ(4人)

【研修方法】 ロールプレイング

1 ワークのねらいとルールの確認 (5分)

2 ウォーミングアップ (10分)

①アイスブレイク1(他己紹介、等)

②アイスブレイク2

・二人組になり、「自分が今夢中になっていること」「好きなこと」等を伝え合う。

・聴く側はできるだけ質問等を控え、相づちや「そうですね」といった言葉掛けをしながら聴くことに徹し、話す側は持ち時間の全部を使って話す。(交代)

③聴いてどう思ったか、聴いてもらえてどう思ったか感想を伝え合う。

※保護者の感想を全体で共有し、聴くことや聴いてもらえる喜び等を共感し合う。

3 ロールプレイング (30分)

①資料「ワークシート① 子どもの声を聴く」を読み、4人グループで役を決める。5人以上の場合は第三者の役になる。

②グループ内で役割を演じ、子どもの気持ちや保護者の気持ちをそれぞれ想像し、感じたことを付せんに書き、伝え合う。

③感じたことをもとに、グループで再度演じながら保護者の言葉を考える。

④新しいセリフでのおもちゃの取り合い場面を演じる。

4 ポイントをまとめ、保護者に伝える (15分)



(例) 気持ちを伝え合う体験をしていただきました。人が生きるうえで、自分の思っていることを伝えられること、それをきちんと受け止めてもらえることは大切です。子どもが健やかに成長するために必要であり、自分の意見を伝え、聴いてもらうことが重要です。

赤ちゃんも言葉で伝えられないだけで、表情や声等、身体全部を使って気持ちを伝えているのです。人は、自分の表現したことをきちんと聴いて、受け止めてもらえることによって、自分自身への信頼感が育ちます。また、どの年齢であれ、自分が大切にされることで自尊感情が育ちます。

けんか=大変と捉える前に、大人も子どももそこで感じた気持ちを聴き合う、大切にしようことで、人と豊かにつながっていくためのステップになると思います。

※さらにもう一步!話し合ってみましょう。

・「イヤイヤ期の子ども」 ①どんな時にイヤイヤがでるのか考える

②子どもの気持ちを大切にする関わりについて考える

ワークシート① 子どもの声を聴く

ロールプレイング 「おもちゃの取り合い」

アイリ、サクラ、アイリの保護者、サクラの保護者

アイリ：おもちゃで遊んでいる。

サクラ：おもちゃを取りあげる。

アイリ：泣く

サクラの母：「何をしているの。アイリちゃんが遊んでいるおもちゃだから、とったらだめでしょう。返しなさい。ごめんね。アイリちゃん。」
と言って、アイリにおもちゃを返す。

サクラ：泣く

アイリの母：「大丈夫。アイリはこのおもちゃで遊ぶから。」

と言って、アイリからおもちゃをとりあげてサクラに渡す。

アイリ：泣く

1. 2人の子どもの気持ちを考えてみましょう。

2. 2人の保護者の気持ちを考えてみましょう。

3. あなたが保護者なら、どうしますか？



保護者ワーク② どうしてですか？ 子どもの生活リズム

- 【ねらい】 ○生活リズムを整える重要性に気付き、よい習慣を付けるための工夫を考える。
○他の意見を聞き合いながら、これからの生活に役立てようとする意欲につなげる。

- 【準備する物】 ◎「ワークシート② どうしてですか？ 子どもの生活リズム」
◎付せん(中・・・2色) ◎ペン・色マーカーペン ◎模造紙

【所要時間・人数等】60分 1グループ(3~4人)

【研修方法】 KJ法

1 ワークのねらいとルールの確認 (5分)

2 ウォーミングアップ (10分)

- ①アイスブレイク1(他己紹介、等)
- ②アイスブレイク2(子育てフルーツバスケット)

3 グループ協議 (30分)

- ①資料「ワークシート② どうしてですか？ 子どもの生活リズム」を読み、タカシさんが困っていることは何かを考え、付せんに書く。
- ②困っていることを出し合い、意見をまとめ、模造紙に貼る。

- ③解決の方法を考え、付せんに書く。
各家庭で工夫していることを書いてもよいことを伝える。
- ④出された意見の交流を図る。
- ⑤他のグループの模造紙を参考に見合う。
- ⑥ワークをした感想を伝え合う。

4 ポイントをまとめ、保護者に伝える (15分)

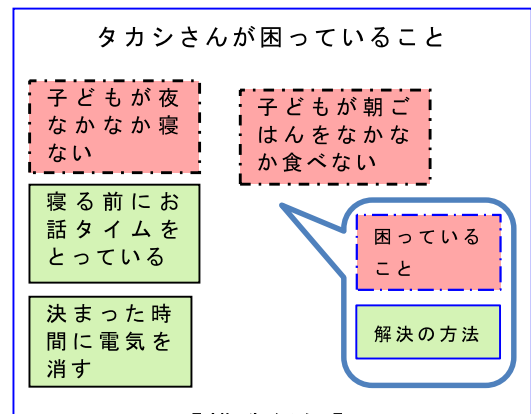


(例) 基本的な生活習慣の大事さについては、みなさんご存知の通りです。ですから、皆さんが日々いろいろな工夫をされていることに驚きました。でも、現実にはタカシさんの家庭のようにうまくいく時もあれば、いかない時もあります。ちょっと工夫できないかと思った時、このワークのように子育ての仲間として尋ねてみるのもいいです。勿論、子どもによって合う方法、合わない方法があります。それぞれのお子さんに合った方法で取り組んでみてください。

※さらにもう一歩!話し合ってみましょう。

- ・「子どもとスマートフォン、みなさんどうしていますか？」
- ①スマートフォンのよさを考える
 - ②スマートフォンの気になることを考える
 - ③「ちょっと知りたい隣のスマホルール」として、スマートフォンの活用状況について情報交換をする

事前に園でスマートフォン使用についてアンケートを取り、その結果を研修に生かすこともよい。また、研修のまとめとして幼児期の体験活動やコミュニケーションの重要性を説明することも大事である。



【模造紙例】

ワークシート② どうしていますか？ 子どもの生活リズム

次のエピソードを読んで、グループで話し合ってみましょう。

タカシさんの子どもは、朝なかなか起きることができません。通勤前に保育所に送っていかなければならないのですが、ぎりぎりまで寝ているので、無理やり起こしています。やっと起きても、食事や身支度をするのにとても時間がかかります。毎朝のことなので、ほとんど困っています。保育所での様子は、午前中は活発ではないと言われますが、お迎えに行くころは元気いっぱい遊んでおり、帰ろうとしません。

1. タカシさんが困っていることは何でしょう？

2. タカシさんが困っていることについて、どのような工夫ができそうですか？



保護者ワーク③ わがままと自我

【ねらい】 ○保護者の役割について学ぶとともに、子どもの気持ちを受け止める方法を考える。

【準備する物】 ◎「ワークシート③ わがままと自我」 ◎鉛筆

【所要時間・人数等】60分 1グループ(3~4人)

【研修方法】ブレインストーミング

1 ワークのねらいとルールの確認 (5分)

2 ウォーミングアップ (10分)

①アイスブレイク1(他己紹介、等)

②アイスブレイク2

(子どものいいところを紹介し合う。)

3 グループ協議 (30分)

①資料「ワークシート③ わがままと自我」を読み、お父さんの気持ちを考える。

②タロウさんの気持ちを想像し、ホワイトボードに書く。

③どのような関わり方が考えられるかをホワイトボードに書く。

④意見の交流を図り、ワーク後に感想を伝え合う。

4 ポイントをまとめ、保護者に伝える (15分)

タロウさんちのお買い物

お父さん

タロウさん

- ・もうつれてこんきね。
- ・どうしてもほしい。
- ・ほうっておく。
- ・買ってくれるまで泣いてやる。

どのような関わり方が考えられますか？

- ・入店前に手をつないでおく。
- ・まずはタロウさんが行きたいところに行ってみる。

【ホワイトボード例】



(例) 受け止め方によって、子どもの行動は変わってきます。いろいろな家庭でのルールやエピソードを聞かせていただきました。

3歳児は今まで以上に自我が発達し、自分のやりたいこと、やりたくないことがはっきりとしてきます。「なんで?」「どうして?」と質問をしてくる子どもさんも多いのではないのでしょうか。この時期は、物事を理解する力や人とのコミュニケーションをとる力が育つとともに、感受性が豊かになる時期。身近な人の気持ちも少しずつ理解できるようになり、我慢や許す気持ち等もだんだんと身に付いていきます。

けれど、自分がやりたいことの優先順位が高く、言葉で伝えるよりもすぐ行動に移る、自分の気持ちが大人に伝わらないもどかしい気持ちをもつ、といったことがあるため、ときにはかんしゃくを起こしたり反抗的な態度をとったりすることがあります。

そのような時は、「タロウ君は、おもしろそうなものがいっぱいあるから、たくさん見たいのね。」といったタロウ君の気持ちを受け止めることが大事です。気持ちを受け止めた後、「～したら見に行こうか。」「一緒にお野菜を選んでくれる?」といった提案をすることもいいかもしれません。

※さらにもう一步!話し合ってみましょう。

- ・「子どもとの時間について」 ①子どもの気持ちを大切にしている関わり方について考える
- ②子どもと過ごす中で、大事にしている時間を話し合う

ワークシート③ わがままと自我

次のエピソードを読んで、グループで話し合ってみましょう。

タロウさんは3歳。お父さんとスーパーに買い物に来ています。カートに乗せようとしても嫌がり、一人でウロウロするので、お父さんはゆっくりと買い物ができません。

お父さん：「タロウ待ちなさい！ 一人で歩いちゃダメ！」

タロウさん：（興味をもった商品に向かって走り出します）

お父さん：「こらっ、他のお客さんにぶつかるだろう。」

（ぶつかりそうになったお客さんに「すみません」と謝りながら追いかけます）

タロウさん：（お父さんが追いかけてくれるのを楽しむようにウロウロしていますが、急に立ち止まり）

「このお菓子買って～！」（今度はダダをこね始めました）

お父さん：

（あなたならどうしますか？）

1. もしあなたが、このお父さんならどんな気持ちになりますか？

2. タロウさんはどんな気持ちだと思いますか？

3. どのような関わり方が考えられますか？



保護者ワーク④ 子どものやる気

【ねらい】 ○子どもの思いを受け止め、自主性を伸ばすために、どのような支援がいいのか考える。

【準備する物】 ◎「ワークシート④ 子どものやる気」 ◎鉛筆

【所要時間・人数等】60分 1グループ(3~4人)

【研修方法】 バズセッション

1 ワークのねらいとルールの確認 (5分)

2 ウォーミングアップ (15分)

- ①アイスブレイク1(他己紹介、等)
- ②アイスブレイク2(うなぎによろよるホイ)

3 グループ協議 (30分)

- ①資料「ワークシート④ 子どものやる気」を読み、家庭でも同じような場面がないか尋ねる。
- ②ハナコさんの気持ちを考える。
- ③ハナコさんのお母さんだったら、どうするか考える。
- ④ハナコさんのやる気を次に活かすためには、どのような対応をすればいいのか考える。
- ⑤ワークをした感想を伝え合う。

4 ポイントをまとめ、保護者に伝える (15分)



(例) 子どもにとってお手伝いは、おうちの人の真似をしながら、生活や社会を学んでいくための、大切な生活場面です。家族の一員としての役割を与えられ、認められたりすることで、自信にもつながりますし、何より楽しいですから、あれもこれもとやりたがります。

ですから、「お皿が割れちゃったでしょ。」と失敗を叱る前に、「このように持つと、落とさないからね。」と方法を先に伝えたり、お手伝いの後には、「ありがと、助かったよ。うれしい。」と感謝の気持ちを伝えたりして、大好きな家族の中で生活に必要なことを知る経験、人の役に立つという充実感等が味わえるようにするといいです。「ポストから新聞をとってくる」「お皿を運ぶ」等、子どもができることを見つけて、家族の一員として役割を積極的に与えていくと子どものやる気が満たされていきます。

※さらにもう一歩!話し合ってみましょう。

- ・「子どものほめ方について」
 - ①どんなときにほめるのか考える
 - ②子どものやる気を伸ばすほめ方(言葉・行動等)を考える

研修のまとめとして、子どもの「できた」「できない」で評価せず、結果として「できなかった」けれどそこに至るまでの過程を評価することが大事であり、その後の子どものやる気につながることを説明する。

ワークシート④ 子どものやる気

次のエピソードを読んで、グループで話し合ってみましょう。

ハナコさんは4歳。お母さんのお手伝いがしたくてたまりません。日曜日の夕食時にもカレーを作るお母さんのお手伝いがしたいと、台所にやってきます。

ハナコさん：「にんじん切らせて～！！」

お母さん：「忙しいんだからダメ！危ないからどいて！ハナちゃんの好きなDVDを見ててよ。」

ハナコさん：「お手伝いがしたいの～。あっ、にんじんはお花の形にしてくれないとヤダっ！」

お母さん：「いい加減にきなさい！」

ハナコさん：

1. ハナコさんの気持ちを考えてみましょう。

2. この場合、あなたならどうしますか？



保育実践事例

子どもの人権を守るために、保育所・幼稚園等では、様々な取組が行われています。ここでは、子どもの思いを大切に、試行錯誤しながら、園全体で仲間づくりを支えてきたA保育所の実践事例を紹介します。

「あたしも話せるで」 ～ともに育つ仲間づくり～（A保育所の取組）

A保育所には、当時、2カ国の外国籍の保護者がいました。言語や文化の違いもある中で、A保育所は、子どもや保護者が、安心して通える保育所を目指して取り組んでいました。この事例は、そのときの実践事例です。

「日本語しゃべって」 ～子どもたちの思いを丁寧に捉える～

転所してきたリンさんが保育所に初めて来た時に「わ～、ユーリさんと同じ顔や」とナツキさんが言った。とっさに保育者は「そう？よく見たら目の大きさとか違うんじゃない？」と言葉をかけた。するとナツキさんは「え？似いちゅうで」と言った。ナツキさんはリンさんとユーリさんの両親が同じ国の出身で似ているということから、リンさんに関心を寄せていた。



この時、保育者は、リンさんの気持ちを考えてとっさに返答したそうです。けれど、ナツキさんの思ったことをよく聴き、新しく入った友だちへの関心を受けとめたらよかったと、後で反省をしたそうです。

1週間ほどして、虫が好きなリンさんが「あ、ダンゴムシおった」「このダンゴムシどこでとったか」と、思ったことや聞きたいことを話す姿も見られるようになった。虫かごを持って友だちに見せている時に、ナツキさんが「ねえ、あたしにも見せて」と言うが、リンさんとユーリさんは外国語を使って話していた。それを見たナツキさんは「日本語しゃべって」と言った。保育者は、ナツキが目を見つめて真剣にリンに言っている様子から“自分も見たい、一緒に見たい”という気持ちからだろうと感じた。そこで保育者が「ダンゴムシ見たいの？」と声をかけるとなずいたので、「リンさんにそう伝えてみたら？」と言った。ナツキさんが「あたしもダンゴムシ見たい」と言うと、リンさんは「リンが捕まえたダンゴムシ」と言ってナツキさんに見せ、一緒に頭をつき合わせてダンゴムシを見ていた。

「日本語しゃべって」というナツキさんの言葉を聞いた時、保育者は最初少し戸惑ったそうです。でも、戸惑う気持ちをすぐには言葉にせず、ナツキさんの表情を観察し、ナツキさんの気持ちを丁寧に理解しようしました。すると、ナツキさんは自分の気持ちを言葉にすることができ、そのことが、子ども同士の気持ちがつながるという経験になっていきました。

「え～ 行ってみたい」～本を通して世界に触れる～

子どもが午睡前に見ている『くらべる図鑑』には、世界地図が載っていた。いろいろな国を見ながら、保育者が子どもに親しみのある国をあげていくと「ここかな?」「え?こないだ行っちゃったで」「いいな～」「え?日本って、こんなにちっちゃいが?」と、子どもは思ったことを口々に話していた。自分の知っている国の名前が出ると「ぼく知っちゃうで」「行ったことあるで」と笑顔で友だちや保育者に話していた。

また、絵本『まどのむこうのくだものなあに?』では、赤紫のつぶつぶの果物の絵を見て、「ドラゴンフルーツや」「あずきじゃない?」と自分の思った果物を言い始めた。保育者は「ドラゴンフルーツ!よく知ってるね。食べたことあるの?」と驚くと、ナツキさんが「あるよ」と得意げに言った。あずきと答えた子どもにも「いろいろな食べ物知ってるね」と声を掛けると「ナツキさんもね」と言って、互いに目を見合わせて笑っていた。

保育者は、いろいろな国や場所に名前があることや、友だちや自分の知っている国や聞いたことがある名前や場所に、子どもが興味や関心をもっていると感じたそうです。また、自分のなじみのある場所に、友だちが“行ってみたい”と言う姿に、うれしさを感じている、とも思ったそうです。

世界の国々や各地の文化に触れることができる本を通して、日本という自分の国、まだ見たことのない世界の国々へと子どもの興味や関心が広がっています。また、自分の国に関心をもってもらえることに喜びを感じる姿からは、互いの故郷について共有し合ったり伝え合ったりする機会を保育者がつくることで、子どもの中に喜びや信頼の芽生えが生まれてくる、ということが伝わってきます。

「あたしも話せるで」～共通の経験をもとにして話す～

夕涼み会当日の帰りの会で、今日楽しみにしていることを言い合った。順番に発表していくと、リンさんは「今日の夕涼み会は、太鼓をがんばります」とみんなの前で発表した。それを聞いたナツキさんが「日本語上手やね、すごい」とリンさんに伝えると、リンさんは「そうで。上手で」と笑って答えていた。

保育者が「ナツキさんが褒めてくれてうれしいね」「家ではどんな言葉を話す?」と聞くと、リンさんは「いろいろ話すで」と答えたので、保育者が「英語や、お父さん、お母さんが分かる言葉も話す?」と聞くと、他の子どもも「あたしも話せるで」と、グリーン、ブルー等、知っている英語を話していた。

リンさんは、帰りの会等で保育者が写真や絵を使って話したり、友だちと一緒に歌や踊りをしたりしている時には、楽しい雰囲気を感じて笑っている様子が見られたそうですが、話し合いだけの伝え合いになった時には、友だちの言っていることが分からない様子が見られたそうです。

保育者は、友だちと共感し合えた、伝わった経験をしたリンさんのこの姿から、共通の経験をもとにして話すことの大切さを感じたそうです。

家庭や地域との連携

家庭との連携について、A保育所では、日頃から登降所時等の日常的な会話を大切にしており、特に、初めての保育所行事や子どもの成長を感じられる場面、保護者の心配していること等は直接話す様に心掛けているそうです。一方で、言葉や文化の違いから伝わりにくいことも多々あり、伝わらないことでの行き違いや不安の気持ちにつながることもあったそうです。

そこで、A保育所では、おたよりや写真を活用して、直接渡して話す、ローマ字やひらがなでふりがなを付ける、要所を端的に書いて付せんを渡す、等、保護者に伝わる工夫を探っています。

また、幼児期に必要な生活習慣を身に付けることや保育所での約束事や小学校生活に向けての見通しをもてるように、保健師や専門機関、小学校、ALT、学校教育課と連携して行っています。

さらに、宗教や文化を尊重できるように給食や休み等を配慮したり、保護者同士のつながりの場となるように、行事の手伝いや参観日等の機会を生かす工夫を行っているそうです。

日頃の様子を目にしたり、園の行事に参加されたりした地域の方からは「国際的やね」と温かい雰囲気です声を掛けられたこともあったそうです。

A保育所は、今後も地域のお祭りや文化展等で交流して実際に触れ合う機会を積み上げ、子どもも保護者も安心して保育所に通い、保育所以降の生活も地域とのつながりを基盤にして歩んでいくことをめざしています。

これから・・・ 【実践に取り組んできた保育者の思い】

子どもは、友だちや保育者、保護者等周りにいる人々に興味や関心を寄せながら関わっています。保育者の言い方が端的になると、子ども同士も同じように言い合う姿が見られます。保育者の言葉が伝わらなかつたり、状況が分からず困ったりしている子どもの気持ちになって関わると、子どもたちの互いに伝え合ったり、気に掛け合ったりする姿が多くなります。

また、保育者としての自分の関わり方や子どもの見方が偏っていないか、保育者同士で話すことや保育の研修で気付くことがあります。ときに、自分自身がこだわっていたことに気付いたり、自分の思うように行動して欲しいという気持ちから、子どもを急かしてしまったり、伝わらないことを育ててきた環境の違いを理由にしてしまっていることもありました。



これからは保育者自身が、子どもや保護者の気持ちを理解しようとし続けることを大切にしていきたいです。

研修方法例

ここでは、人権感覚を高めるために効果的と思われる研修方法を紹介したいと思います。ワークや事例は、扱い方によって気づきや学び、園内の共通理解等に違いが生まれてきます。様々な方法に挑戦し、保育所・幼稚園等ならではの気づきや学びを発見してください。

【紹介している方法】

(1) ロールプレイング	役割演技による気づきと対応の模索
(2) KJ法	カテゴリー分類による情報の整理
(3) ブレインストーミング	自由な発想に基づいた多様な気づきとアイデアの創造
(4) バズセッション	ひとつのテーマに基づいた相互的な話し合い

(1) ロールプレイング

現実に近い場面を設定し、特定の役割を演じる模擬体験を通じて、気づきを得て、ある事柄が起こった時に適切に対応したりするための方法。実際に経験したことがない場合でも当事者の立場に立って考えたり感じたりする経験ができ、共感的な理解を図ることができる。

【展開例】

①アイスブレイク

アイスブレイクとは、ロールプレイングに入る前に、意欲を高めたり、役割を演じることに慣れたりする活動。

②再現場面の共有

どのような場所か、どのような状況か等、基本となる情報を共有する。

③ロールプレイング

役を演じる人が、主体的に言葉や動き等で表現して、状況を再現する。演じる役割だけでなく、観客等の役割もあるとよい。

④シェアリング

役を演じる人は、ロールプレイングによってどのような気づきがあったか、どのようなことが思い出されたか等を話し、同様に、観客等も同じように感じたことを話す。話し合うことで、感じ取った新しい気づきを参加者で共有する。

【留意点】

- ・ 演じるスペースや小道具等は、簡素化してよいが、重要なポイントとなる物的環境等がある場合は、実物等を取り入れるとよい。
- ・ 役を演じる人が表現したことは否定しない。また、役を演じる人の演技を評価しない姿勢が大切である。

(2) KJ法

一人一人が、自分で考えた意見を付せんに書いて模造紙等に貼っていき、分類したり、まとめたりすることで、新しい気付きを発見していく方法。問題解決の糸口を探ったり、様々な情報の収集・整理の方法として広く活用されている。

【展開例】

①意見やアイデアの収集

それぞれの意見やアイデアを各自が付せんに記入する。

②意見やアイデアの分類

簡単な説明とともに、それぞれの付せんに模造紙に貼っていき、共通するものをまとめてグループ化したり、簡潔な文言でタイトルを付けたりしてカテゴリー化する。

③グループを構造化する

小グループを大グループにまとめたり、グループごとの関連が見えてきたら矢印で結んだりして構造化する。

④気付きや発見の共有

グループ化、カテゴリー化、構造化を通して、気付いたことや分かったことを模造紙に書きこんでいく。

【留意点】

- ・ 作業中に思いついたアイデアがあれば、追加していくとよい。
- ・ まとめられないものは無理にまとめることなく、残しておいてよい。

(3) ブレインストーミング

テーマについて、できるだけ多くのアイデアを引き出す方法。固定観念を排し、自由に思いつきやアイデアを出し合い、そこから想像と連想を働かせて、多くの気付きやアイデアを生み出していく。

【展開例】

①グループや時間を決める

グループ人数は5人から12人程度が適当とされている。時間は状況に応じて設定する。時間を設定しない場合も考えられる。

②意見が出しやすい環境をつくる

机を円形やコの字にしたりする。各グループの司会進行や記録係を決めておく。

③自由に発言し、全てを記録していく

それぞれの考えやアイデアを思いつくままに出し合っていく。出された意見については、一切批判等をしてはいけない。できるだけたくさんの多様な意見を出すことが望ましい。

④セッションを終え、意見をまとめる

出された意見を参加者全員で確認する。同じ意見をまとめる。出た意見を大切にする。

【留意点】

- ・ 様々な考えが出るように、できるだけ多様なメンバーをグループに配置する。
- ・ 発言が尽きるまで行う場合と、時間を設定して行う場合がある。連続して行ったり、長時間行ったりすると効果が薄れるので、その際は気分転換等も図りながら行う。

(4) バズセッション

テーマに基づき、参加者全員が自由に話し合い、相互作用によって話し合いを深めていく方法。参加者が目的意識をもちグループ内で積極的に発言し、相互に影響し合うことが大切である。少ない時間でも効果的に活用することができる。

【展開例】

①グループや時間を設定する

グループ人数は2～6人程度が適当であるが、これに固執することはない。時間も1・2分間、3分間、6分間等、テーマや状況に応じた時間で設定する。

②話し合い

テーマに基づいて、設定時間内で自由に話し合う。

③グループ発表

各グループの代表が話し合った内容を発表する。

④話し合い

グループ発表を受けて、再度話し合いを行い、気づきや学びを深めていく。

【留意点】

- ・ 出された意見を批判せず、自由に発言できる雰囲気をつくる。
- ・ 質よりも量（たくさんの意見が出ること）を重視し、積極的な発言を促す雰囲気をつくる。



☆グループづくりに役立つもの

★あめだまくじびき



- ①種類が同じあめをグループの数だけ用意する。
(全員分になるように)
 - ②順番に引いてもらい、出た種類でグループになる。
- ※あめだま以外でもクッキー、色紙等でも可。

★ナンバーコール



- ①リーダーの「そ〜れ！」の合図にあわせ、「1回」「2回」と数を増やしながら全員で手をたたき、リーダーの「それまで！」の掛け声で、たたいた回数的人数で集まってもらう。
- ②数回のものち、グループに必要な人数の数だけ手をたたく。

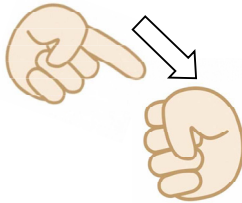
★バースデーチェーン



- ①言葉を使わずに、誕生日が1月1日から12月31日まで順番になるように並んでもらう。
- ②誕生日を発表していき、順番を確かめる。
- ③リーダーが一人一人順番にグループ番号を伝え、告げられた番号でグループを作る。

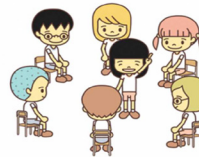
☆緊張をほぐし、場を和やかにするもの

★うなぎによろによろホイ



- ①2人組になる。
- ②お互いの右手人差し指を、相手の左手グーの手の中に入れる。
- ③リーダーの「うなぎによろによろ・ホイ」の合図で相手の人差し指をにぎる。つかまらないように自分の指は逃げる。
- ④グループ全員で輪になって実施してもよい。

★子育てフルーツバスケット



- ①椅子を参加者より1つ少なくし、輪になるように並べて、リーダー以外は座ってもらう。
- ②第1問目はリーダーから始める。例えば、「朝食はパン派である」の質問に対して、「YES」の人だけが、座っていた椅子から別の椅子に移動する。
- ③座れなかった人が、次の子育てに関する質問をする。

☆自己紹介をしたり、名前を覚えたりするもの

★子どもの名前の秘密



- ①合図があったら2人組になる。
- ②じゃんけんをして、勝った人から先に質問する。自分の名前を名乗り、相手の子どもの「名前」「由来」「子どものいいところ」等を質問する。(交代する)
- ③お礼を言ってその場から離れ、合図になると別の人とペアになる。
- ④②と同じことを繰り返す。

★他己紹介



- ①(4人グループの中で)2人組になる。
- ②じゃんけんをして、勝った人が相手の「名前」「子どものころ好きだった遊び」について質問をする。
- ③交代する。
- ④お互いに知った相手の名前や好きだった遊びについて、グループメンバーに知らせる。